

平成22年度第2回都市経営会議

日時 平成22年5月6日(木) 11:00~12:00

会場 市長応接室

参集者 西尾市長 谷澤副市長 小柏副市長 多賀谷教育長 中林水道局長
渡辺企画部長 上戸総務部長 片岡財務部長

議題 函館市民体育館整備基本構想(案)について

◎対応 妹尾教育委員会生涯学習部長 小林次長 岡崎次長
対馬管理課長 大島施設課長 西田スポーツ振興課長
荒井都市建設部長 秋田土木部長 川村財務部財政課長

◆ 議題の趣旨 ◆

市民体育館の整備に関し、「函館市民体育館のあり方検討懇話会」および市議会総務常任委員会からの提言を踏まえ、体育館の役割や機能、立地場所など基本的な考え方をまとめた「函館市民体育館整備基本構想(案)」について協議を行いました。

◆ 協議の結果 ◆

メインアリーナに付随する観客席やステージ、音響設備、会議室などをどうすべきかについて、今後も引き続き検討を行うこととしました。また、市民や関係団体の意見を反映するため、地域と関係団体への説明やパブリックコメントを実施していくことを確認しました。

◆ おもな意見 ◆

■ 妹尾生涯学習部長

市民体育館は昭和50年に整備されて以来、多くの市民に利用されており、そのニーズは多様化・高度化している。そうしたなかで、将来にわたって、子どもからお年寄りまで広く市民が親しめる施設として、メインアリーナの増築や機能面の充実が求められている。立地場所については公共交通機関の利便性が高いこと、空港や湯の川温泉に近接していること、また既存の施設との一体的利用が可能などの理由から、現在地において整備することとしたい。都市公園が不足する問題については、都市計画の変更も含めてさらに道とも協議をしていきたい。

■ 小柏副市長

実際のメインアリーナとサブアリーナの面積はどのぐらいか。

■妹尾生涯学習部長

メインアリーナが 2,500 から 2,800 m²，サブアリーナは 1,720 m²である。

■西尾市長

可動席はどのようなになるのか。

■大島施設課長

可動席は器具庫のなかに収納され，センターコートでの試合が行われるときにせり出してくるように考えている。

■西尾市長

文化的なコンベンションにも使えるものなのか。

■大島施設課長

使えるものとなる。

■西尾市長

現在の 2 階席は 1,500 席位だが，スポーツコンベンションの入場者数はどのぐらいか。

■西田スポーツ振興課長

バレーボールの Vリーグで 2,400 ～ 2,500 人ぐらいとなっている。

■西尾市長

可動席は経費がかかる。場合によってはイスを並べたらそれで十分というものもある。

■谷澤副市長

他都市の状況はどうか。

■西田スポーツ振興課長

備えているところが多い。

■西尾市長

ステージはどうか。現在の組み立て式のものは使いにくい。それから音響設備はどうか。

■西田スポーツ振興課長

折りたたみステージは位置が固定されるという問題もある。

■小柏副市長

可動式のステージもあるのではないか。

■小林次長

可動席は概算事業費に含まれている。その他にステージをとということであれば 3,000 万円程度，音響設備には 1 億 5,000 万円程度かかることになる。

■西尾市長

音響は必要に応じて外から持ち込めるからいらないだろう。

■渡辺企画部長

基本構想（案）のなかで観客席は 3,000 席としており、コンベンション機能の必要性について検討するとしているが、年間 30 件ぐらいの大規模コンベンションがあるなかで、どのぐらいの観客が見込めるのか。他都市の施設では 3,000 から 4,000 席が多いが、利用状況を調べておいた方が良いのではないか。

■西尾市長

実際に 3,000 席も必要とするコンベンションはそう多くはないと思われる。スポーツコンベンションは、観客は 1 階席で見、2 階席は選手の休むところになっている場合が多いと思う。文化的なコンベンションも見込まれるが、適正な規模がどうなのか、判断が難しい。

■片岡財務部長

規模 4,000 m²は少し大きいのではないか。維持管理にどの程度かかるのか表記しておく必要がある。施設整備後、どのぐらいかかるのかが重要だ。

■小柏副市長

固定席が面積に影響しているが、直接ランニングコストに影響する部分なので、2,000 席必要かどうか慎重な検討が必要だ。大きいのに人が入らず、維持費がかかるということでは困る。

■小林次長

バスケットボールの大会で 3,900 人、プロレスで 2,800 人の観客が入った。

■西田スポーツ振興課長

仮設席を用意するのに経費がかかるという利用団体からの声もある。固定席が少なければそれに見合うものしか来ないとも考えられる。最低でも 2,500 席ぐらいは必要だと考える。

■西尾市長

判断は非常に難しい。現時点では観客席は固定席と可動席をあわせて 2,000 から 3,000 席、メインアリーナ棟の面積は 3,500 から 4,000 m²として、検討の余地を残してほしい。会議室はメインアリーナには必要ないのではないか。

■西田スポーツ振興課長

選手控室、代表者会議などで使うのでメインアリーナに必要だと思う。

■多賀谷教育長

最低限のものは、メインアリーナに必要だと考えている。

■小柏副市長

国際規格などもあるだろうが、スケールはできるだけ小さくした方がよい。

■西尾市長

趣旨には合併地域も視野に入れていることを表記してほしい。また、都市公園の問題については、都市計画の位置付けも含めて検討をしてほしい。それらを踏まえて地域への説明をすることが必要だ。

■妹尾生涯学習部長

地域の町会長には一度説明をしており、賛同を得ている。

■小柏副市長

パブリックコメントはやらないのか。

■小林次長

今後、年度内に耐震改修、基本計画と進めていくのでそれと並行してパブリックコメントをやりたい。

■小柏副市長

市民はまだよくわからないので、早めにやったほうがよい。関係団体にも早めに諮ってその意見を反映することで、より市民に歓迎される施設になる。

■西尾市長

耐震診断はこれに関わらず先行して進めていいのではないか。

■小林次長

場所が現在地でとなった時点で、耐震診断を進めたいと考えている。

■妹尾生涯学習部長

ランニングコストは現在の体育館は約 9,500 万円で人件費を含めると 1 億 5,000 万円だが、新たに整備した場合、2 つあわせて 2 億円程度になると予想される。

■西尾市長

整備構想（案）については、今回の協議を踏まえ修正してほしい。